災害時要援護者・介助者体験訓練説明資料（電気系・情報学部）

学生用

訓練の目的

　視覚障がいの方や聴覚障がいの方（災害時要援護者）が、災害時にどのような状況におかれるか、またその介助者としてどのような支援が必要なのかを模擬体験し、その体験を通して災害時における災害時要援護者の方への支援のあり方について各自が考え、学ぶことを目的とする。

訓練参加者

電気系・情報学部の学生、教員

①誘導役

情報通信工学科：山口　実靖、小林　亜樹

コンピュータ科学科：三好　和憲

情報デザイン学科：張　珏

②要援護者役・介助者役：学生約50名

訓練の主な流れ

（訓練の進捗状況により下記時間が前後することもあります）

13時：3階アーバンテックホール集合

　　ホール入り口にてゼッケン（白色）を配布

13時から13時15分：訓練説明、訓練備品の配布

誘導役→腕章を配布

要援護者役・介助者役→アイマスクまたは耳栓、筆談用道具を配布

13時15分頃から30分：誘導役教員の誘導で新宿駅地下広場へ移動

アーバンテックホール→大学B1階→南側地下道→新宿駅地下広場

※誘導ルートは次頁参照

※誘導役は腕章を着用

13時30分：災害時要援護者・介助者体験訓練準備

　　誘導役教員→訓練の準備を指示

要援護者役・介助者役→アイマスクまたは耳栓を着用、筆談用道具準備

13時35分頃：誘導役の指示・誘導で訓練開始

　　新宿駅地下広場→南側地下道→新宿中央公園

　　※誘導ルートは次頁参照

14時頃：角筈出張所職員により新宿中央公園へ受入開始

14時15分頃：角筈出張所職員の誘導により体験型訓練会場に参加

16時頃：体験型訓練終了、アンケートの実施・回収、記念品贈呈、解散

要援護者役、介助者役の訓練内容

　訓練内容：要援護者役と介助者役が2人1組で行動し、要援護者と介助者を模擬体験する

☆視覚障がいの方を模擬した要援護者：アイマスクを配布

アイマスクを着用し、介助者の誘導で移動する

☆視覚障がいの方を模擬した要援護者の介助者

転倒事故などがないよう、経路中の段差や通行人に注意しながら要援護者を安全に誘導する

　　☆聴覚障がいの方を模擬した要援護者：耳栓、筆談用具（ペン、紙、画板）を配布

耳栓を着用し、筆談にて介助者と意思疎通しながら介助者の誘導で移動する

　　☆聴覚障がいの方を模擬した要援護者の介助者：筆談用具（ペン、紙、画板）を配布

筆談にて要援護者と意思疎通しながら、要援護者を安全に誘導する

注意事項など

・訓練中、個人の荷物は持参し、各自で管理を行う。

・要援護者役と介助者役が2人1組で行動する。

・誘導途中、誘導役より指示があったら、要援護者役と介助者役を交代する。

　・視覚障がいの方を模擬した要援護者は、アイマスクを着用し、介助者の誘導で移動する。危険だと感じたら、すぐにアイマスクを外し、訓練を中止する。

・視覚障がいの方を模擬した要援護者の介助者は、転倒事故などがないよう、経路中の段差や通行人に注意しながら要援護者を安全に誘導する。

　・聴覚障がいの方を模擬した要援護者は、耳栓を着用し、筆談にて介助者と意思疎通しながら介助者の誘導で移動する。

　・聴覚障がいの方を模擬した要援護者の介助者は、筆談にて要援護者と意思疎通しながら、要援護者を安全に誘導する。

誘導ルート図